

お盆明け後 異例の高温

管内10カ所猛暑日 各地で臨時休校

オホーツク管内は23日、各地で気温が上昇し、北見市は8月の観測史上1位となる最高気温37・1度に達するなど猛暑に見舞われた。お盆明け後では異例の高温で、危険な暑さを避けるため、管内各自治体は学校を臨時休校するなどの対応に迫られた。気象庁は23日に続いて24日も「熱中症警戒アラート」を発令しており、網走地方気象台も熱中症への警戒を訴えている。

「学校に行くのを迷うほど朝から暑かった。立つていただけで汗が止まらない」。北見市のラグビー場で、24日から始まる大会の会場設営に当たった北見工業高校のラグビー部の豊原直虎さん(16)は、あふれ出る汗を手で拭いた。津別高では繰り上げ下校時に、生徒たちが携帯型扇風機を手に入れた姿が見られた。

熱中症対策の主なポイント

屋内では

- 室温28度を目安にエアコンを使用する
- 窓に遮光カーテンやすだれなどを設置し、日差しを遮る
- 2方向の窓を開け、室内の熱を外に出す

屋外では

- のどが渇いていなくても1日1.2ℓを目安に水分補給する
- 帽子や日傘を使い、こまめに日陰で休憩する
- 携帯型扇風機や保冷剤などのグッズも活用する

※環境省や厚生労働省の資料などを基に作成

同気象台によると、23日午後5時までの最高気温は津別町で36・6度、女満別空港(大空町)で36・0度、滝上町で35・8度、美幌町と遠軽町で35・6度など。管内の観測地点10カ所で猛暑日となり、15カ所で今年最高を記録した。

「お盆を過ぎての猛暑日は異例」(同気象台)といい、冷房のない学校も多い。北見市の小学校と義務教育学校の計18校が臨時休校し、中学校も10校ほど

携帯型扇風機を手に下校する津別高の生徒たち(茂忠信撮影)



が短縮授業になった。美幌町や訓子府町の中学校も臨時休校したほか、網走市や斜里町などは屋外の部活動や体育を中止した。屋外の人の姿も減った。管内で唯一開設中の紋別市

の海水浴場「オホーツクホワイトビーチ」は、23日午後3時までの来場者が前日に比べ大幅に減って、わずか4人どまりに。ビーチを管理するオホーツク・ガリソンタワー社の大槻正明さ

ん(70)は「平日に加え、外が暑すぎる」とお手上げ状態だった。

子どもの水遊び場として人気がある北見市の香りゃんせ公園も、閑散としていた。熱せられたアスファルト路面を避けて愛犬を草地で散歩させた同市の主婦笹岡由紀さんは「犬がやけどしないように公園に来た。水も普段より多くあげるようにした」と話した。

管内は24日も猛暑が予想される。北見市は前日に続き24日も小学校17校と義務教育学校1校を臨時休校し、中学校13校などが午前中だけの授業とする。管内の他自治体の小中学校も臨時休校や繰り上げ下校などの対応を続ける。

同気象台は「今週いっぱい暑い。週明け後もまた後半に暑さが来ることが見込まれる。体調管理に気を付けてほしい」と、しばらく熱中症対策を徹底するよう呼びかけている。(逢坂哲平、仲沢大夢、相川康暁)